徳島大学病院　院内広報誌
Harmony
第23号
発行日　令和元年7月
編　集　広報委員会

今号は病院業務強化担当病院長補佐に寄稿いただきました。

時代が過ぎても変らないもの

病院広報委員長の北畑先生から、私の最も苦手とする文章の執筆依頼がありました。私の趣味や特技などを紹介する文章ということで、皆様にお伝えできるようなものを持ち合わせていない私にとって、非常に難しい御要望です。子供の頃から色々少しだけ手をだしては、すぐ飽きて続かないというパターンでした。小さい頃の真空管ラジオの作成から小学校のピアノと囲碁・将棋、中学校から高校までは軟式庭球(今はソフトテニス)、大学時代は硬式テニスと色々やってはあまり続きませんでした。

少し珍しいところでは、10年ほど前まで車のエスティマのインターネットにおけるオーナーズクラブであるNEF since 2000の四国支部長を担当し、四国内でのオフ会や全国オフ会への参加なども行いました。現在はNEF自身の活動が中止となっているようです。

そこで、最近私が感じたことを少し書くことにします。今年は平成から令和への時代の転換点ですが、その前の昭和の時代についても振り返る機会が増えました。NHKの朝の連続小説でも昭和の時代が舞台となることが続いており、現在はアニメーターを目差す女性が主人公の「なつぞら」が放映されています。このドラマにはモデルが存在して、東映動画に所属していた方で、ジブリや虫プロの関係者との関わりもあったようです。アニメといえば私にとってはやはり手塚治虫氏が忘れられません。手塚氏は、昭和55年の徳島大の医学部祭にメインゲストとして招待講演をされ、当時医学部1年生だった私も拝聴する機会を得ました。時代は劇画の最盛期でありながら、「ブラックジャック」で復活を遂げた手塚氏が再び注目された頃でした。講演では彼の色々なマンガのキャラクターを実際に模造紙に描いて紹介しながら、マンガやアニメーションへの彼の思いと社会との関係について話しを進めます。そして、マンガの地位向上と自己鍛錬をかねて医学研究を行い博士号を取得した話をされました。厳しい社会の目や批判が自分とマンガの向上と成長に不可欠であったという話しでした。逆境こそがチャンスであり、成長のきっかけになることを教えていただいた講演でした。

手塚氏は60歳で平成元年になくなりましたが、現在日本のアニメ制作も海外でのスタジオが多くなり、マンガについては雑誌が売れず、メガヒットが少なくなったと衰退の兆しが見えています。最近では社会や経済のシステムそのものが制度疲労を来たし、時代の転換期に入ったことが感じられます。このような時でも手塚氏であれば転換期であるからこそ、逆境を好機ととらえて批判と否定意見を取り入れながら新たな発想と不断の努力で問題に対峙するのではないかと思います。できれば自分もそのようにありたいと思っています。

ところで、60歳で亡くなった時の手塚氏の最後の言葉は、**「頼むから仕事をさせてくれ」**だったということが伝説のように残っています。ここにも色々と考えさせられるものがあるように思います。

病院業務強化担当病院長補佐　原田 雅史

このコーナーでは、病院でとりくんでいる様々な事業を紹介します。

アレルギー疾患医療拠点病院について

気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎などを代表とするアレルギー疾患は過去50年以上にわたり世界的規模で増え続けており、わが国においても国民の2人に1人が何らかのアレルギー疾患に悩まされているのが現状です。このようなアレルギー疾患を有する国民が、その居住する地域にかかわらず等しく科学的知見に基づく適切なアレルギー疾患医療を受けることができ、アレルギー疾患に関し、適切な情報を入手することができることを基本理念に、平成26年6月に「アレルギー疾患対策基本法」が成立しました。この基本法を軸に平成29年3月にはアレルギー疾患への対策を総合的に推進するための政府の基本指針がまとめられました。この基本指針の中にはアレルギー疾患医療に関わる全国的な連携のイメージ図が紹介されています。「国立成育医療研究センター」および「国立病院機構相模原病院」が全国のアレルギー疾患医療の中心拠点病院として位置付けられ、都道府県アレルギー疾患医療拠点病院と全国拠点病院連絡会議を通して情報を共有しつつ医療を進める協力体制が示されています。一方、都道府県レベルで見ると、都道府県アレルギー疾患医療拠点病院が中心となり、都道府県アレルギー疾患医療連絡協議会を通して地域の実情を継続的に把握し、診療連携体制、情報共有、人材育成等の施策の企画、立案や実施等のアレルギー疾患対策を推進することが求められています。このような経緯の中、平成30年度に各都道府県においてアレルギー疾患医療拠点病院の選考が実施され、平成31年1月に徳島大学病院が徳島県アレルギー疾患医療拠点病院に指定されました。今後、徳島大学病院においては総合的にアレルギー対策を推進するための組織の整備が必要です。このような地域のニーズに応えるため、現在「総合アレルギーセンター（仮称）」の設置に向けた準備を進めています。

呼吸器・膠原病内科長　西岡 安彦

NEWS・イベント大募集！

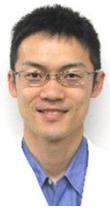
「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係（bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp）までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしています。

病院新採用職員の紹介

口腔外科
中島世市郎助教

平成31年4月より大学院医歯薬学研究部口腔外科学分野に着任しました中島世市郎です。生まれも育ちも大阪で、趣味は夏がキャンプ、冬はスキーです。
昨年度までは大阪医科大学口腔外科に在籍していました。入れ歯治療など歯科治療全般が求められた環境と異なり、口腔外科に特化した高度で専門性に富んだ治療内容の濃密さ、求められる技術や知識量の膨大さに大きな驚きと重圧、そして充実感を感じています。
着任し診療日数は僅かではありますが、その間にも多くの手術や化学療法、放射線療法などに携わらせていただきました。また、喪失歯に対する歯科インプラント埋入や、顎変形症に対する外科的矯正治療など多種多様な疾患の治療に加わり、口腔外科医として成長する日々を送らせていただいています。
今後も口腔外科医として専門性を磨き、少しでも多くの患者さんに高度で安全な医療を提供できるよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。

整形外科
玉置康晃特任助教



平成31年4月より整形外科に赴任しました玉置康晃と申します。香川県（三豊総合病院、高松赤十字病院）での勤務を経て約5年ぶりに地元・徳島に帰ってまいりました。
専門は股関節・膝関節疾患で人工関節手術を中心に研鑽を積んでいます。大学ではクリニカル・アナトミー・ラボ（CAL）を用いて研究を行い、人工関節手術のさらなる低侵襲化、成績向上にむけた研究を行っています。
今では体を動かすことはめっきり減りましたが大学時代はサッカー部でした。日本整形外科学会には年に1回、親善サッカー大会というものがあり、毎年年度末になると整形外科の先輩・後輩と動かない体にムチを打ってサッカーを楽しんでいます。
令和元年という節目の年が自分自身にとってもターニングポイントとなるよう精進してまいります。至らない点も多々あると思いますが精一杯頑張りますので御指導御鞭撻のほどよろしくお願いします。

卒後臨床研修センター
磯村祐太研修医

平成31年4月より研修医としてお世話になっております、磯村祐太と申します。生まれも育ちも徳島県でそのまま徳島大学に進学いたしました。卒業後は徳島大学病院卒後臨床研修プログラムのもと、1年目は愛媛の公立病院で研修させていただきました。市中病院ということで救急疾患やcommon diseaseを多数経験させていただきました。研修医という肩書はとても優れたもので、上級医はもちろんコメディカルの方々を含め、診療科・職種をまたいで実に多くの方々から学ぶ機会を与えていただけるポジションだと日々感謝しております。この機を逸せず今後も研鑽に励むとともに、2年目となった本年度からは患者様含めて皆様のお役に立てるよう努力して参ります。
多くの方々にお世話になるかと存じますが、ご指導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

東病棟3階
柳本雅子助産師

今年度から東病棟3階(周産母子センター・産科)に配属になりました、柳本雅子と申します。当部署は、産科病棟及び新生児集中治療室を備えており、24時間体制で母体搬送を受け入れています。合併症妊娠や切迫早産などハイリスクな妊産褥婦や児が多く入院されており、幅広い知識と技術が必要とされます。様々な母子を看護する上で、業務を覚えることに精一杯の毎日ですが、先輩方にご指導いただきながら日々頑張っています。
休日は、友人とカフェに行ったり、天気のいい日には遠出したりと気持ちをリフレッシュしています。また、茶道が趣味なので、仕事が終わりに抹茶を飲みながらお菓子を食べることを楽しみに仕事に望んでいます。
これからも、一つずつできることを増やしていき、母親や児、ご家族に寄り添うことが出来る助産師として働くことが出来るように、日々精進していきたいと思っています。

医事課診療録管理係
竹谷美知子事務員

この度，医事課診療録管理係に配属になりました竹谷美知子と申します。徳島大学病院の職員として，第一歩をスタートできたことを嬉しく，また身が引き締まる思いです。
私の所属する係は，診療情報の提供や診療録等の管理・運用・監査に関する事務を担当しています。私の担当している業務のひとつとして，クリニカルパス業務があります。定例会議や年に二回のクリニカルパス大会の開催にあたり，医師，看護師等の多職種の方々と連携を図っています。病院経営の改善，質の高い医療の提供のため，チーム医療としてクリニカルパスの質向上と改善を目指し，進捗状況の確認や準備を進めています。
診療情報管理士としてチーム医療の一員となり，徳島大学病院に貢献出来るよう，日々精進して参りますので，ご指導ご鞭撻のほど，よろしくお願い申し上げます。

総務課労務係
仲村虹輝事務員

平成３１年度４月より徳島大学病院総務課労務係に採用になりました仲村虹輝と申します。労務係は病院職員の労務管理を担当している係で、私は病院職員の休暇の手続きや勤務時間の計算などを主に担当しております。この４月より働き方改革関連法が施行され、この徳島大学病院でも大きく状況を変えていかなければいけない中、何かお力添えすることができればと思っております。
趣味はスニーカー集めで毎月２足ほどのペースで集めておりましたが、最近は玄関からスニーカーが溢れ始めたので少し買うのを控えております。
４月から社会人になったばかりで右も左も分からないことばかりですが、少しでも早く仕事をこなせるように日々精進していきます。